

短報

貝塚市初記録のムラクモケヤリを採集

鈴木良実（大阪府大東市）

はじめに

貝塚市立自然遊学館のイシガニ展示水槽内のろ過フィルターで、2025 年 6 月 29 日に環形動物門ケヤリムシ目ケヤリムシ科のムラクモケヤリ *Branchiomma cingulata* Grube, 1870 を見つけていたところ、2025 年 12 月 15 日に二色の浜に打ち上げられたマクサから本種を採集したので、貝塚市初記録として報告する。

観察

イシガニ水槽（図 1）を觀賞していた際、濾過装置のスリットから、小さな生きものが、素早く瞬間的に出たり引っ込んだりしているのに気付いたが、詳細な姿が肉眼では分からないので、デジタルカメラで拡大撮影（図 2）して確認した。

二色の浜での発見

2025 年 12 月 15 日、二色の浜に打ち上げられたマクサから、全長約 9 mm のムラクモケヤリ 1 個体（図 3）を採集した。採集個体は 80% エタノール水溶液で液浸標本にして貝塚市立自然遊学館で保管されている。

形態的特徴

水槽内で観察した動きと形状から、カンザシゴカイ科のゴカイ類に似ていると思ったが、石灰質の棲管が見当たらず、オレンジ色と白色の横縞の細い棒に、白色と暗赤色の糸で羽毛状をした生物が群生しているように見えた。鰓冠を構成する各鰓糸の外側にも突起があり、鰓糸に多くの眼点が並んでいることや、体には褐色斑点が並ぶ特徴が確認できた。ムラクモケヤリは奥田・今島, 1976 によると、「体色は樺色または青褐色で背腹両部に多数の赤褐色斑点をもち、背腹両足枝間には褐色の斑点がある。2 葉の鰓冠は各々 30~40 本の鰓糸をもち、各鰓糸の主軸には紫色と帯紅褐色との帯が交互に現れる。各主軸の背側には 10~20 対の細長い指状突起があり、またそれらの近くに球状の眼点

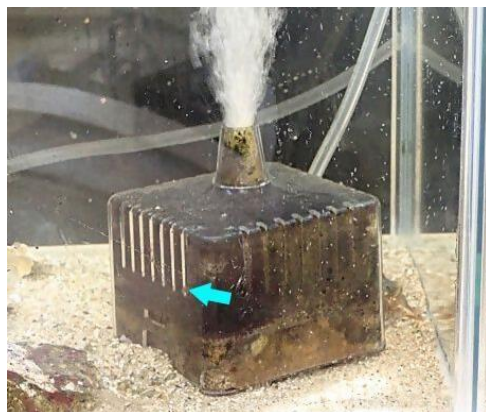


図 1. ムラクモケヤリのいた位置（矢印）



図 2. 鰓冠を広げるムラクモケヤリ
①鰓冠 ②棲管の先端

がある。棲管は膜質で砂粒、泥を付着する」とあり、採集個体の形態と概ね一致した。サイズは奥田・今島 1976 によると、体長 4～7 cm、体幅 3～5 mm とあるが、今回採集したものは小さく、まだ若い個体と考えられる。

考察

二色の浜での採集は貝塚市では初記録になるが、大阪湾岸域では岬町長崎海岸での記録（大阪湾岸生物研究会、2012）や、大阪湾生き物一斉調査において 2012 年のせんなん里海公園での記録、2023 年の兵庫運河での記録（大阪湾環境再生連絡会、2025）がある。自然遊学館の水槽へはどのような経緯で加入したのかはわからないが、近隣海域での生育状況について興味深い種である。

謝辞

同定についてご教示いただいた加藤哲哉博士（京都大学白浜水族館技術職員）に厚くお礼申し上げます。また、水槽での観察、標本の保管についてご配慮いただいた貝塚市立自然遊学館のスタッフの皆様にお世話になった。

引用文献・参考文献

奥田四郎・今島 実（1976）多毛綱. 新日本動物図鑑 [上] 529pp.

大阪湾岸生物研究会（2012）大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-2006～2010 年の調査結果-. 自然史研究 3（13）：222.

大阪湾環境再生連絡会（2025）大阪湾生き物一斉調査情報公開サイト 全地点・全期間の生き物データリスト. http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/life/upload/life_datalist より（2025 年 12 月 30 日閲覧）

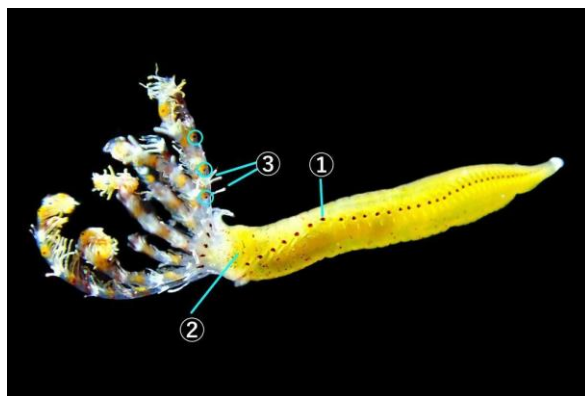


図 3. ①褐色の斑点 ②赤褐色斑点 ③指状突起
円内は眼点